

みやぎ生協 福祉活動助成金 助成活動報告書

団体名	KOSODATE 応援会	
代表者名	鈴木 里佳子	
連絡先	TEL : 070-85423344 FAX :	E-mail kosodateouenkai@outlook.jp

1、助成事業報告

助成を受けた事業名	体罰等によらない子育て「ポジティブ・ディシプリン®」プログラムの普及～地域パートナーとの協働を目指して～
事業の目的	2020 年に児童福祉法が改正され、家庭における体罰等が禁止されたが、「じゃあどうすれば？」がわからないことや子育てについて学ぶことなく子どもを養育することの難しさが様々な子どもを取り巻く様々な社会的課題（虐待・ネグレクト・孤立した子育て・不登校など）につながっている。こういった課題の解決に子どもの発達（子どもの世界・視点）、効果的な育児法に関する研究や子どもの権利がベースにあるポジティブ・ディシプリン®のプログラムを実施することで、参加者は子どもともに親子間における課題を解決する考え方を学ぶことができ、子どもが成人するまでにどのような親子関係を築いていたか、そして、そのためにどのような関わり方をすべきか、を考え行動できるようになる。 また、このプログラムを当団体が単独で行うのではなく、地域の教育機関・保育施設と共に開催することにより、その地域単位での体罰等によらない子育てへの理解や子育てへのサポートが重要であるという理解が進み、他の地域パートナーとの普及につなげることを目的とする。
事業の具体的内容	怒鳴らない・叩かない子育て「ポジティブ・ディシプリン®」プログラム（1 期全 9 回（週 1 回 2 時間））を 2 期、1 期は目学校法人ろりぽっぷ学園 ろりぽっぷ小学校・スクール（不登校特例校）との共催にて 5 月期、2 期目は、当初予定していた学校法人東音学園 音の光幼

	稚園より変更が生じ、仙臺緑彩館にて青葉山エリアマネジメントとの共催で1月期に行った。
活動の開始から完了までの流れ	2024年5月期の開催を目指し、学校法人ろりぽっぷ学園 ろりぽっぷ小学校・スクールを地域のパートナーに共同開催の計画を進めたことにより、ろりぽっぷ小学校・スクール内の教室をプログラム会場に、併設する市民センターの和室を託児会場に無償で借りることができた。4月より参加者の募集を開始した。ろりぽっぷ小学校・スクールに通う児童/生徒の保護者のみならず、法人内のこども園等を利用する保護者にも周知を行ったが、初回開催日までに最少催行人数を満たすことができず、1週間開催を遅らせてのプログラム開始となり、2024年5月21日、28日、6月4日、11日、18日、25日、7月2日、9日、8月29日で全9回を実施した。参加者は8名のべ54名の参加があり、参加者の子どもの数は合計16名（間接的裨益者）、託児利用者数はのべ32名となった。 夏休み期間中を利用し、学校法人東音学園 音の光幼稚園を地域パートナーにプログラムの開催を予定していたが参加者が募らず、見送る結果となった。再度、地域パートナー探しを行い、仙臺緑彩館を仙台市指定管理する青葉山エリアマネジメントとの共同開催という運びとなった。青葉山公園は美術館や博物館、大学が集まる文教エリアであり、そういった地域で子育て向けの講座を検討していたとのことから、年明けの1月からの開催に向け、和室をプログラム会場にホールを託児会場に、安価（2部屋500円/回）での提供があり、共に同エリアにおける子育てを盛り上げるパートナーとして準備を進め、15名の申込みがあり、参加申込者の開始前の持病発症や妊娠等によりキャンセルがあり、11名でのプログラムスタートとなり、2025年1月17日、24日、31日、2月7日、13日、25日、3月4日、14日、25日に全9回を実施した。のべ80名の参加となり、参加者の子どもの数は18名（間接的裨益者）、託児利用者数はのべ17名となった。
活動の成果と教訓	まず、プログラムの効果として、ろりぽっぷ小学校・スクールを会場（5月期）としたプログラム開発者による効果測定は人数により結果を得ることはできなかったが、参加者からプログラムの最終回に感想やプログラムを踏まえ、これから子どもとどのように関わっていきたいか、一人一人話す時間を設けている。そこで語られた一部の参加者の言葉を下記の通りである。 ・参加当時2児（1歳/5歳）の母：子どもに自分が求めることが大きいことに気づき、これまでの自分の対応に涙が出てきた。子どもの年齢にあった対応をこれからも心掛けていきたい。

・参加当時 2 児（5 歳/7 歳）の母：どうやって子育てをしたらいいか悩んで参加した。自分と子どもが違うことに気づきをもたらしたので、これから子どもと良い関係性がつくれるように一緒にやってみる。

・参加当時 2 児（1 歳/7 歳）の母：子育ては（いわゆる）普通の家庭でも課題が多いので、子どもが保護されて施設等に措置される家庭はもっと多くの課題があり、（児童養護）施設で働いていたこともあったので、そういった家庭への支援や子どもたちの対応について考える機会となった。

緑彩館を会場（1 月期）とした参加者に関する効果測定は別添の資料の通りであり、また、最後に語られた一部の参加者の言葉は下記の通りである。

・参加当時 1 児（4 歳）の母：参加当初はイライラのピークだった。子どもがかわいいと思えなかったのが、いまはかわいい、かわいいと思え、怒ることが減り、子どもが考えていることに対応できることが増えた。そして、毎回ここにリラックスして参加できた。

・参加当時 1 児（3 歳）の母：パパばかりに子どもがいていたが、プログラムに参加し、子どもの声を聞くようになったら、子どもが自分と過ごす時間が増えてうれしかった。

・参加当時 1 児（8 歳）の母：子どもとの会話が減っており、関係が崩れていた。プログラムに参加し、自分は子どもにとって巨人の存在であり、関わり方を改めた結果、子どもと話す時間が増え、関係修復ができた。プログラムに感謝している。

・参加当時 2 児（2 歳/5 歳）の母：幼稚園教諭としての経験があるが、自分の子育てではまったくできず、幼稚園の子どもには発しない言葉を自分の子どもには発してしまう。過去に違う講座を受けたが、自分にはしっくりこなく、役に立たなかった。厳しさ重視の自分には温かさ（安心・安全）が足りていなかったことをこのプログラムは教えてくれた。

子どもの体調不良や子ども行事（授業参観/発表会等）で休むことが多い養育者向けのプログラムであり、全 9 回出席率の平均 81.7%（過去 7 回実績/平均 1 人 3 回の欠席）は高い値と言え、会場ろりぽっぷ小学校・スクールは 79.2%、緑彩館は 80.8%であり、平均とほぼ同じであったが、特に緑彩館での参加者のうち 9 回すべてに参加した方は 4 名（通常 1 名程度）、1 回の欠席は 3 名とプログラムを通して高かったことは、プログラムへの関心の高さ、会場の公園のゆったりとした空間や参加者とファシリテーターでつくられる雰囲気や安心感が要因のひとつであることが参加者の語りから考えられる。

次に、本事業の核となる地域パートナーとの協働について振り返る。ろりぽっぷ小学校・スクールは小学校やこども園を運営しているが、想定よりも少ない人数の参加となり、開始日を遅らせ募集期間を延ばすなど参加者集めに苦戦した。当団体は拠点となる施設がないため、拠点施設を所有/運営する組織/団体との共催のメリットを見込んでいたが、共催側のニーズ想定の見込みに誤りがあったことや必ずしも子どもの施設や機関であるからといって参加者につながるわけではないことがわかった。ただ、いずれも、ちらし配布/配架の依頼の際は、当団体名だけでは認知度の低さから受け手の不信感につながるが、パートナーの認知度の高さや地域からの信頼が高く、スムーズな広報活動・プログラムの認知向上につながったと考える。また、当初会場費として 144,000 円を見込んでいたが、共催者の無償提供や安価での提供により 4,500 円となったことは、非常に大きな成果と言える。

しかし、ろりぽっぷ小学校・スクールの保護者の参加がなく、不登校特例校を選択するまでの保護者の心情や子どもへの対応の変化等をプログラム内の随所で語られ、その保護者が語る経験や聞き手の保護者が得られる経験といった参加者間のダイナミックスを当プログラムに見込んでいたが、そこに到達できなかったことは残念であり、協働は「共同」に留まったと言える。一方、青葉山エリアマネジメントは、緑彩館の週末のイベント時は賑わい、平日は閑散としているため、子育て世帯で平日の日中をにぎやかにしたいことや文教エリアで子育て世帯への学びの機会の提供として、当プログラムを共催する意義があることから事業が始まった。プログラム前後に館内のイベント「キッズパーク」や「マルシェ」を利用する参加者の姿があったり、参加者からは「また子どもと利用したい」とプログラム以外での利用を考える声も聞かれたり、緑彩館の利用増加につながると言える。さらに、青葉山エリアマネジメントでは、緑彩館を中心として様々なテーマで団体/組織をつないでおり、当団体以外に乳幼児の親子を対象とした発達リズムあそび教室がある。当団体がその教室を見学に行ったり、教室の方が当プログラムを見学にきたりと、同エリアの子育てを応援する団体同士の交流があった。今後の当プログラムの展開に生かしていきたい。

最後に、託児謝金が当初の約 3 分の 1 の支出となった背景には、パートナーを探している中、生涯学習支援センターの事業のひとつに託児ボランティアの養成があることを知った。そして、宮城野区を活動拠点とし、主に市民センターの託児ボランティアをしている「にんじん」

	と出会い、市民センターでの託児は減少し、活動の場を求めていたとのことで、通常の活動範囲外ではあったが、プログラム中の託児への協力が得られたことは大きな成果と言える。
今後の展望など	本助成金を活用し、教育機関・保育施設をパートナーとしプログラム開催モデルを試みた。その1機関/施設にプログラムの対象となる0~18歳の子どもを育てる養育者は存在するが、平日の日中は就業等の理由により参加が難しいこと、また、これまでの実績から複数人（1家庭子どもの人数 平均2.0名）の子どもを育てる養育者の参加が多いことがわかった。このことから、1社ではなく【複数の企業】×【子育て世帯の社員】×【育休】からなるプログラム開催ができるように、企業へのアプローチ（1社1社へ当団体が説明をするのではなく、すでに形成されている企業の集合体へアプローチ）の準備を今後進める。同時に、プログラム自体を変更したり、プログラムに何かを加えたりすることはできないが、プログラムに参加し、子育てを学ぶ以外の異業種子育て交流につながる形態を模索していきたい。 これまでは1団体との共催や協働を目指していたが、複数の組織/団体/企業ともに社会的課題を解決することを目標とし、団体立ち上げから3年で示されたプログラムの実績・効果を提示しながら、次の3年（4・6年目）を助成金の使用割合を半分に減らすモデルの構築を目指していく。

2、助成金使途報告書

■ 収入の部

確保した資金内容	金額（円）	備考
福祉活動助成金	500,000	
自己資金	45,000	参加費 2,500 円×18 名
自己資金	1,195	寄付
合計	546,195	

■ 支出の部

費目	内容	予算額（円）	実支出額
会場費	@緑彩館 1回2部屋500円×9回	144,000	4,500
消耗品費	模造紙・プロッキー・トナー・茶菓子等	60,000	67,972

印刷/広報費	チラシ・教材・インスタ投稿依頼	50,000	42,609
謝金（①外部ファシリテーター）	7,000 円/回× 9 ¹⁸ 回	126,000	144,500
謝金（②託児スタッフ）	交通費を含む 1,500 円/h×4h×5 人×18 回	540,000	189,600
交通費（①外部ファシリテーター）	往復 3,000 円×18 回	54,000	42,230
交通費（②内部ファシリテーター）	往復 1,500 円×18 回 打ち合わせ時の駐車場利用料	27,000	19,360
交通費（③託児スタッフ）	往復 1,500 円×5 人×18 回	135,000	0
通信運搬費	託児ボランティアや外部ファシリテーターへの必要書類の郵送等	0	628
保険料	託児時のボランティア行事保険 30 円×20 人×9 回	0	5,400
雑費	プログラム指定書籍 1,600 円/冊×24 冊 プログラム効果測定料 1 プログラム 12,500 円	40,000	29,396
合計		1,126,000	546,195

*用紙が足りない場合は他の用紙などで補ってください。

3、送付必要書類

① 福祉活動助成金 助成活動報告書

プリントアウトしたものを1部郵送、データもメールでお送りください。

② 領収書のコピー（郵送）

③ 成果物（活動の様子がわかる写真、または事業で作成したものを郵送）

*写真は郵送とメールで送ってください。

子どもと顔を合わせても衝突ばかり、子どもとの関わり方をゆっくり考えたい
子育てを見直したい・子どものことでイライラが増えたかも…

託児付 プログラム

／ ポジティブ・ディシプリン® ／ たたかない・怒鳴らない子育て

※2回目～の参加も可能

場所：ろりぽっぷ小学校

*校内の教室で開催します
(仙台市太白区坪沼長田中9-1)

日時：11:00~13:00

全9回

この事業は、みやぎ生協福祉活動助成金により実施しています

1回目 5月14日 (火)

4回目 6月4日 (火)

7回目 6月25日 (火)

2回目 5月21日 (火)

5回目 6月11日 (火)

8回目 7月2日 (火)

3回目 5月28日 (火)

6回目 6月18日 (火)

9回目 7月16日 (火)



*校内の駐車場の利用ができます。

*プログラム前後の時間は交流室をご利用いただき、
お子さんの送迎時間等までお過ごしいただけます。

対象： 12名

・0~18歳の子どもを育てている方

内容：

「罰がダメというなら、どうしつけを変え
たらいいの？」のコタエを探すプログラム

日々の子育てに向き合う養育者同士が集まり、
自分の考えを整理したり、おしゃべりしたりし
ながら…。

コタエがひとつではない子育て、だからこそ、
じっくり時間をかけ、子どもとの関係や自分自
身の子育てを考えます。

問い合わせ

kosodateouenkai@outlook.jp

共催：KOSODATE応援会・

学校法人ろりぽっぷ ろりぽっぷ小学校・スクール

後援：仙台市教育委員会

参加費：2,500円

(全9回分・資料代含む)

※参加費の負担が難しい場合はご相談ください

ポジティブ・ディシプリン®

(前向きなしつけ) とは？

セーブ・ザ・チルドレンが児童臨床心理学者
ジョーン・E・デュラント博士と共に開発。

手をあげたり、怒鳴ったりではなく。

でも、したい放題にさせるわけでもなく。

日々の課題に子どもと同じ目線で向き合い
自信とちからをのばしていく子育てです。



参加申込みQR

URLはこちら

<https://questant.jp/q/82NUU1AS>

子どもと顔を合わせても衝突ばかり、子どもとの関わり方をゆっくり考えたい
子どものことでイライラが増えたかも…子育てを見直したい

公園のリラックスした空間で学ぶ/ 子どもとの向き合い方が変わる、子育て ポジティブ・ディシプリン®

託児付
プログラム

全9回

場所：仙臺緑彩館

(仙台市青葉区川内追廻無番地)

対象： 14名

- ・ 0～18歳の子どもを育てている方
- ・ 全9回に参加できる方優先
- ・ 初めて参加される方優先

参加費：2,500円

(全9回分・資料代含む)

※参加費の負担が難しい場合はご相談ください

内容：

「罰がダメというなら、どうしつけを変え
たらいいの？」のコタエを探すプログラム

ポジティブ・ディシプリン®

(前向きなしつけ)とは？

セーブ・ザ・チルドレンが児童臨床心理学者ジョー
ン・E・デュラント博士と共に開発。手をあげたり、
怒鳴ったりではなく。でも、したい放題にさせるわ
けでもなく。日々の課題に子どもと同じ目線で向き
合い自信とちからをのばしていく子育てです。

問い合わせ

kosodateouenkai@outlook.jp

共催：KOSODATE応援会

青葉山エリアマネジメント

後援：仙台市教育委員会

KOSODATE 応援会

参加申込みQR



URLはこちら

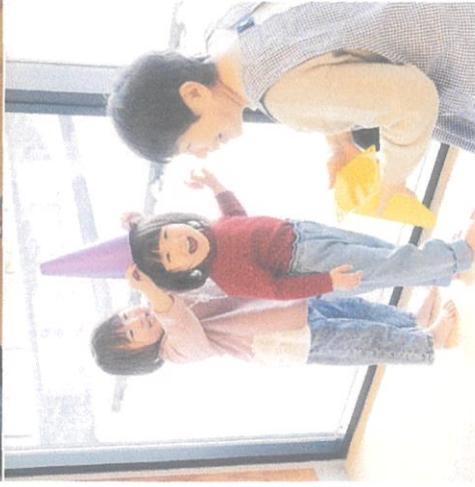
<https://questant.jp/q/X85G0TYD>

ポジティブ・ディシプリンはNPO法人きづくの登録商標です
この事業はみやぎ生協福祉活動助成金により実施しています

2024年5月期@ろりぽっふ小学校・スクールでのポジティブ・ディスプレイン®プログラムの様子



2025 年 1 月期@仙臺緑彩館でのポジティブ・ディシプリン®プログラムの様子



託児の様子